

4 Re-Factory

中村智康 (指導教員 八尾 廣)

1 はじめに

私が計画地として選んだのは、私の地元、静岡県富士市です。

富士市は工業が盛んな街で、製紙業や、車関係の工場が住宅街や、街の中心街に多くあります。しかし、近年それらの工場が廃業や移転などにより広大な工場跡地が空地になってしまっています。

私が敷地として設定したところも移転の話が持ち上がったところでもあります。

街の中心にある広大な工場が無くなり残った跡地を人の引き付ける開かれた場所にできないかと考え計画しました。

2 敷地

静岡県富士市青葉町19-1

ユニプレス富士工場

敷地面積：56,283平方メートル

ユニプレス 概要

プレス加工技術に強みを持ち、自動車用プレス部品の市場では最大手である。車体骨格やトランスミッション部品、脂成形部品の製造・販売を主な事業とし、国内・海外で事業を展開している。日産自動車と関係が強い。環境への取り組みとして、植樹・森づくりをする団体「more trees」の応援もしている。



図1 敷地地図

3 コンセプト

富士市が工業の街ということや、広大な工場の建築廃棄物など環境のことを考えたとき、完全に無にして新しい物を造るのではなく、工場をリサイクルしようと考えました。

| | |
|---------|-----------|
| Recycle | リサイクル |
| Reduce | 減量 |
| Reuse | 再利用 |
| Refuse | ゴミになる物の拒絶 |

これらをコンセプトにし、新たに工場跡地をどのようにするか計画しました。

site photo

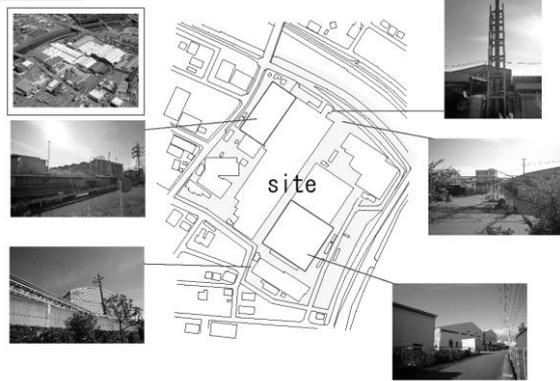


図2 敷地写真

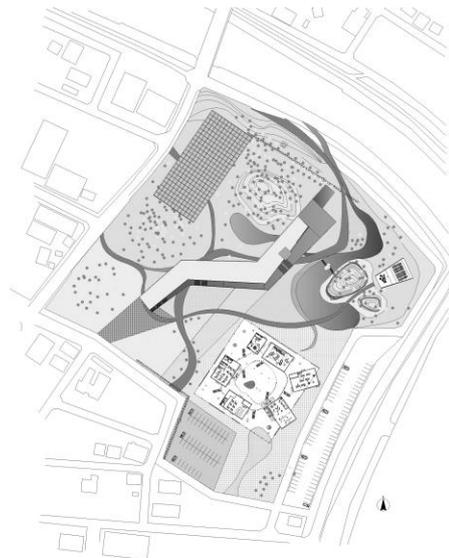


図3 計画配置図

4 計画

4-1 敷地全体

まず、工場の躯体を2つ残しました。1つは広い空間を持つ南側の正方形の工場、もう1つは、のこぎり屋根の工場。新たに造るものとして、複合施設を敷地中央に配置しました。工場跡地が緑広がる敷地になればよいと考え、木々がたくさん生い茂る公園にしました。これはユニプレスの活動である、植樹、森づくりの活動の一環として工場跡地を緑化しました。敷地北側に流れる潤川を引き込み、池をつくりました。敷地内には工場の面影を残すため、煙突や配管を利用したソーラー発電照明をのこしました。人が多く出入りする敷地南側はイベント広場として、仕上げをタイル張りにしました。



図4 敷地全体模型

4-2 南側工場

大通り側の正方形の工場の鉄骨を残し、外壁には透過性のあるソーラーパネルを使い新たな用途として、富士市の特産物を売るお店を入れました。中央にはスペースを開け屋内イベントスペースにしました。



図5 工場再利用 模型写真

4-3 複合施設

中央の建物は、富士山に向かって上がっていく階段を南側にもうけ各階にアプローチできるようにしました。一階部分は、敷地を分断してしまわないようコアを設け、5メートルのピロティにしました。そこをくぐると、緑溢れる公園につながっていけるようにしました。2・3階はフードコートにしました。4・5階は富士市の産業を紹介し、富士市がどのような街なのかを知ってもらえるような展示スペースとしました。屋上と、階段によって出来るスペースは緑化しました。

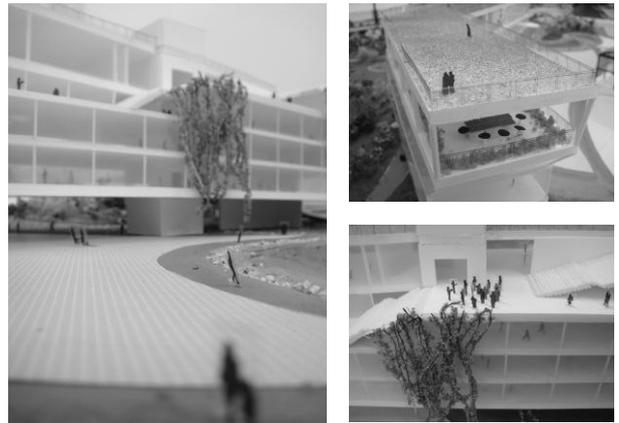


図6 複合施設 模型写真



図7 南側立断面図

4-4 工場の面影を残す

工場の骨組みの再利用のほか、工場であった事を忘れないように、工場のシンボルの要素として、煙突を木々が広がるエリアにそのまま残しました。配管が通っていた支柱も残しソーラー発電の照明にしました。

5 まとめ

工場の面影をのこし、森のような公園に変わっていくことが私の考えた富士市の工場跡地の利用方法です。リサイクルという、コンセプトを念頭に計画を進めましたが、もっと敷地全体にコンセプトを感じさせる、プログラムを入れていけばよかったと思いました。建築を考えると、敷地周辺の関係性など、広い視野から考えていかなければならないと学びました。